

漁村ニ於ケル結核ノ研究

新潟縣西頸城郡浦本村ニ於ケル検査成績

金澤醫科大學谷野内科教室 (主任谷野教授)

助教授 柿下正道 講師 横井藤太郎
Masanichi Kakishi'a *Totaro Yokoi*

助手 上月與四郎 助手 田中富士夫
Yoshiro Kozaki *Fujio Tanaka*

副手 橋本亥三武 副手 水谷寛
Isamu Hashimoto *Hiyoshi Mizutani*

(昭和17年2月5日受附 特別掲載)

(本調査報告ハ金澤憲兵隊ニ於テ檢閲ヲ了セルモノナリ)

(本調査ハ學術振興會員、厚生省技師古屋芳雄博士ノ委嘱ニヨルモノニシテ
 其要旨ハ昭和16年度日本結核病學會總會ニ於テ發表セルモノナリ)。

内容抄録

余等ハ出稼者ノ結核罹患状況並ニソレ等ノ村内結核汚染ニ及ボス影響ノ實狀ヲ究メンガ爲ニ年々多數ノ出稼者ヲ出シ然モ特殊ナル地形ヲナセル漁村新潟縣西頸城郡浦本村宇中濱區ヲ対象トシテ全村民ニ對シ集團檢

診ヲ行ヒ結核ノ蔓延状態ヲ明ニシ且ツ現在中濱區ニ於テ發見セシ結核患者ノ1/3ハ出稼中或ハ歸村後發病シテハ村内ニ於テ二次的ニ感染シ、然モ其等ノ大多數ハ歸村者ニ其ノ感染源ヲ歸ス可キヲ知り得タリ、

目次

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 第1章 緒言 | 第3章 マントー氏反應ニ就テ |
| 第2章 新潟縣西頸城郡浦本村ノ地勢及ビ人文 | (1) 小學校兒童ニ就テ行ヘル成績 |
| (1) 地域 | (2) 一般住民ニ於ケル成績 |
| (2) 地形 | 第4章 赤血球沈降速度ニ就テ |
| (3) 人口 | 第5章 「レントゲン」検査成績 |
| (4) 一般生活状態 | 第6章 中濱區ニ於テ發見セシ結核患者ニ就イテ |
| (5) 出稼状態 | 第7章 本村ノ結核感染源ニ對スル考察 |
| (6) 出稼者ノ疾病並ニ結核死亡ニ關スル統計的觀察 | 第8章 結論 |
| | 文獻 |

第1章 緒言

近時生産工業界ノ躍進的發展ニ伴ヒ農山漁村青年男女ノ都會殊ニ工業地ヘノ出稼進出ハ極メ

テ著明ナルモノニシテ爲ニ人口構成表ニ於イテモ都會地ノ青年層増大スルニ反シ農山漁村ニア

リテハ15歳ヨリ30歳ニ至ル間ノ人工ハ男女共ニ減少セリ。而シテコレ等多數出稼人中ニハ結核性疾患ニ感染歸郷シ爲ニ本人ノミナラズ該村ノ結核傳染源トナリ多數ノ人的資源ヲ消耗セシメツ、アルハ極メテ憂慮ス可キ現状タリ。此處ニ於テ余等ハ地理的關係ニ於テ山嶽ノ海岸線ニ迫

リ比較的狹隘ナル帶狀ヲナセル地域ニ家屋密集シ而モ出稼者ヲ多數出シツ、アル村落ヲ選ビテ出稼者ニ依ル村內結核汚染ニ及ボス影響ノ實狀ヲ究メンガ爲ニ新潟縣西頸城郡浦本村字中濱區ヲ對象トシテ本調査ヲ實施セリ。

第2章 新潟縣西頸城郡浦本村ノ地勢及ビ人文

(1) 地域 浦本村ハ新潟縣ノ西端ニ位置セル西頸城郡ノ中央ニ在リテ糸魚川町ヲ離ル、事東北6軒ノ地點ニ在リ而シテ本村ハ中宿、中濱、間脇、鬼伏ノ4區ニ分タル余等ハ村役場、小學校等ノ所在地タル中濱區ニツキテ調査ヲ行ヘリ。

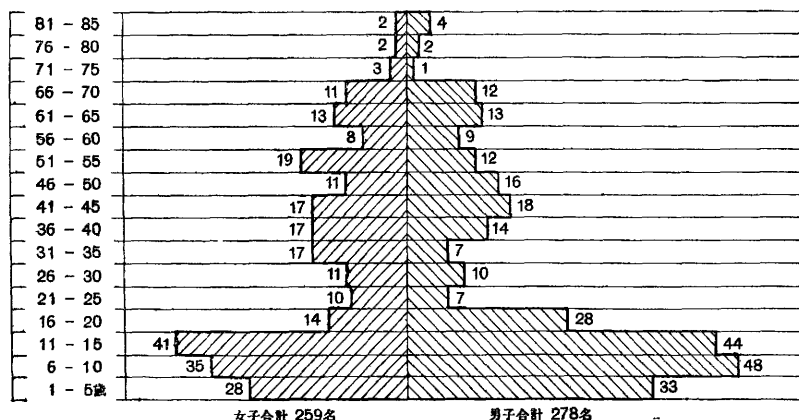
(2) 地形 同地方ハ全般ニ東ハ頸地「アルプス」ノ支峯タル「高ノ峯」ノ漸次低下シテ西北ニ展開シ來レル山地一連ガ障壁ヲナシテ海ニ迫リ、同村ハ南ハ梶屋敷、北ハ本浦村ト境シ西ハ日本海ニ面セリ。爲ニ平地ハ僅ニ海岸線ニ存スルノミナリ。而シテ本村ノ家屋ノ存スル地域ハ東西5軒南北僅ニ100乃至200米ニシテソノ間ニ國道並ニ北陸本線ヲ通ズ。村落ハ地形ト職業ニ影響サレ海岸ニ近キ平地ヲ選定シテ住所ヲ構ヘテ居ルガ爲ニ海岸線ニ沿ヒタル所謂街形ヲナセル部落ナリ。交通ハ糸魚川ヨリ能生ニ至ル極メテ平坦ニシテ海岸線ニ沿ヒタル道路ニハ乗合自

動車往復シ北陸線ノ能生、梶屋敷、糸魚川ノ各驛ニ通ズルヲ以テ漁村トシテハ比較的便利ナリ(地圖參照)。

(3) 人口 余等ノ調査セル中濱區ノ戸數ハ100戸ニシテ調査時(昭和15年8月)ノ人口男278名、女子259名、合計537名ナリ。此處ニ於テ余等ハ試ミニニ在村者ニ就キテ人口構成表ヲ作成セシニ全國平均ニ比シ同區ハ極メテ特徴アル形ヲ呈シ16歳ヨリ30歳迄ノ人數ハ極端ニ減少シ特ニ女子ニアリテハ女工トシテノ出稼者多キ爲特ニ著明ナルヲ認メタリ(附圖參照)。此ノ關係ハ熊谷內科教室⁽¹⁾ニ於テ發表セラレタル農村ニ於ケル人口構成ニ一致セリ。

本調査ニ於ケル受診率ハ極メテ良好ニシテ不參者ハ僅カニ53名(内男子27名、女子26名)ニシテ受診率ハ90.13%ニ當レリ。コレ豫メ連絡了解ヲ求メタル縣村當局、區長並ニ學校長、校醫横山省吾氏等各位ノ理解アル御支援ト糸魚川町

中濱區人口構成表 (調査時人口537名)



＝開業セラル、谷正吉學士ノ格別ナル御配慮＝依ルモノニシテ余等ノ感謝措ク能ハザル處ナリ。

(4) 一般生活状態 中濱區ノ家屋ハ狹隘ナル土地ニ密集セル關係上國道ヲ挾ンデコレニ平行シ相近接セル爲ニ採光通風共ニ合理的ナルモノ少ク建築ハ大部分木羽屋根ノ低キ二階建ナリ、窓ハ概ネ硝子窓ナルモ採光ト同時ニ煙リ出シヲ兼ネタルモノ多キ爲ニ窓ノ位置ハ一般ニ高ク屋内暗ク日中屋内ニ於テ仕事ヲスルニ不便ヲ感ズル程度ナリ、床ノ高サハ2尺時ニハ3尺ノモノヲ見受クルモ床下ニハ冬期甘藷貯藏庫及ビ糞糞ノ保管所等ノ設クルニ依リ一般ニ惡臭ヲ漂ハシ不快ナルモノ多シ、寢室ハ奥マリタル部屋ヲコレニ充當シ窓極メテ少ク採光通風共ニ惡シク常ニ陰氣ニシテ濕氣ヲ含ム事多ク殊ニ夏期ハ夜間漁業ニ従事シ日中寢ニツク者多キ關係上今尙萬年床ヲ使用セルモノ實ニ戸數ノ65%ニ及ベリ。然レ共寢室ノ一人領有面積ハ大部分疊1.5枚以上ナリ。家計ノ主ナル職業ハ殆ンド漁業ニシテ100戸中商業ニ従事スルモノ7戸、官公吏又ハ事務員トシテ俸給生活ヲナセルモノ18戸、

大工2戸ニシテ他ハ總テ漁業ヲ主トシ道路ノ沿線ニ散在セル僅カノ耕地ハ主トシテ婦女子ニ依リ副業的ニ耕作セラル、程度ナリ。而シテ村民ノ大部分ハソノ生活状態裕福ナラズ爲ニ居村シテ得ラル、收益ノミニテハ到底生計ヲ全カラシムル事困難ナルニ依リ村外ニ於テ收益ヲ得ル必要ニ逼ラレ年々男女ノ多數ヲ各方面ニ出稼セシムル狀況ナリ。

尙身體ノ保清状態、被服及ビ寢具ノ洗濯回数、家庭ニ於ケル醫療用器具並ニ藥品ノ常備狀況、消毒及ビ各種疾病ニ對スル理解程度等ニ依リ判斷スルモ衛生思想ハ一般ニ低級ナルモノ多キヲ知ル。

(5) 出稼状態ノ調査 糸魚川職業紹介所並ニソノ前身タル西頸城郡東部出稼者保護組合ニツキテ同所ニテ取扱ヘル女子ノ府縣別出稼狀況並ニ病氣歸郷者ヲ調査スルニ女子ノ殆ンド全部ハ製絲並ニ紡績女工ニシテ附表第1ニ示セル如ク昭和7年ヨリ同12年迄ニ同組合ニテ取扱ヘル女工數ハ1箇年700名以上943名ニ及ベリ。次ニ浦本村中濱區ノミニツキテ昭和6年ヨリ同15年ニ至ル10箇年ニ亙ル出稼女工ヲ調査スルニ最モ

附表第1 病氣歸郷健保適用者府縣別對照表 (自昭和7年
至昭和12年)
(西頸城郡東部出稼者保護組合調)

府縣別	東	京	長	群	埼	愛	岐	滋	大	福	石	三	神	新	兵	富	福	合	歸
年度別	京	都	野	馬	玉	知	阜	賀	阪	島	川	重	奈	潟	庫	山	井	計	郷
昭七 和年	25	54	77	190	143	53	94	119	14	24	46	6	24	74				943	4.67
		3	4	9	5	6	4	10		2	5		1	5				54	
昭八 和年	26	72	73	169	105	65	74	12	12	38	55	7	44	62	3			817	5.75
		4	5	8	10	2	2			1	10		1	4				47	
昭九 和年	10	87	35	155	71	95	55	7	44	43	50	5	26	27	3	6	22	741	4.49
		5	1	11	2	3				1	8		1	4			1	37	
昭十 和年	14	135	26	159	76	102	68	3	23	74	76		11	15		76	42	900	8.00
		2	16	1	9	2	4	3	1	3	18		1	1		8	3	72	
昭十一 和年	14	137	20	152	82	113	83	3	5	68	72	1	10	15	1	110	57	943	6.78
		1	11	2	3	2	6	4		1	9		1	3		19	2	64	
昭十二 和年	9	79	15	134	101	100	106	7	6	44	65	1	3	33	6	131	41	881	7.60
		7		5	12	4	7			4	8		3	3	1	12	4	67	

附表第2 年齢別離村者調査表

性別 年齢別	男	女	計
	41-45	1	1
36-40	3	0	3
31-35	4	0	4
26-30	10	2	12
21-25	13	14	27
16-20	5	32	37
11-15	0	4	4
計	36	53	89
總計	89		

註：本表外ニ3名ハ調査時療養ノ爲金澤醫科大學附屬醫院ニ入院小兒ニテハ兩親ト共ニ出稼地ニ於テ居住スルモノアリ。

少キハ昭和12年ノ39名ニシテ最も多キハ昭和13年ノ63名、1箇年平均48名ノ女工ヲ出稼セシメツ、アリ。而シテ本年余等ノ檢診時ニ於ケル離村者ハ15歳以上ノ女子53名ニシテ殆ンド全部ガ女工トシテ出稼シ、16歳以上ノ男子36名、内8名ハ〇〇中ノ軍人ニシテ其他ノ者ハ青海町電化工業會社職工並ニ一時的ノ土工労働者トシテ離村セルモノニシテソレ等ヲ合計スレバ實ニ89名ニ達ス。

(6) 出稼者ノ疾病並ニ結核死亡ニ關スル統計的觀察 女工ニシテ出稼中疾病ニヨリ歸郷スルモノハ西頸城郡東部全體トシテハ出稼女工ノ

附表第3 浦本村中濱ヨリノ女工出稼状況

年次別	女工數	病氣歸郷	出稼中病死者
昭和6年	53	4	1
昭和7年	54	3	1
昭和8年	51	1	0
昭和9年	42	0	0
昭和10年	40	0	0
昭和11年	47	0	0
昭和12年	39	2	0
昭和13年	63	5	0
昭和14年	49	1	1
昭和15年	42	3	0
計	480	19	3

4.49%ヨリ最高8.00%ニシテ而モ年々増加ノ傾向ニアリ、中濱區ニ於テハ最近10箇年間ニ病氣ノ爲歸村セルモノ19名(3.96%)ニシテ出稼中死亡セルモノ3名アリ。

次ニ是等途中歸郷セルモノノ疾病ニツキテ昭和12年度ニ於ケル調査成績ヲ觀ルニ(附表第4參照)ソノ過半数ナル49.2%ハ結核性疾患者ニシテ次ニ脚氣20.8%、「リウマチス」17.9%、胃腸疾患ハ僅カニ4.4%、其他外科、眼科、耳鼻科の疾患合計7.5%ト云フ成績ヲ示セリ。即チ疾病歸郷者ノ病類別ヨリ觀ルモ結核性疾患ソノ大部分ニシテ當地方ノ女工ノ健康問題引テハ其等ノ及ボス影響ニ關シテハ大イニ憂慮スベキ點タル事ハ表ニ依リ明カニ示サレタル處ナリ。

附表第4 西頸城東部地方出稼者病氣歸郷調査表

(昭和12年度西頸城東部地方出稼者保護組合調査)

病名	結核性疾患	リウマチス	脚氣	胃腸疾患	其他	計
全ニル女對割	3.7%	1.3	1.5	0.3	0.6	7.6
病者ル病氣ニ對合	49.2%	17.9	20.8	4.4	7.5	
病郷數氣者歸實	33	12	14	3	5	67

註(1) 昭和12年同組合ニテ取扱タル出稼女工總數881名(2) 本調査ハ病氣ノ爲歸郷シ健康保險ヲ適用サレシ者ニツキ行フ。

次ニ浦本村ニ於ケル結核死亡率ヲミルニ附表第5ニ示セル如ク昭和2年ヨリ昭和11年ニ至ル10箇年ニ於ケル結核死亡者ハ(呼吸器以外ノ結核ヲ含ム)46名ニシテ全死者ニ對スル比率ハ年次ニ依リ2%ヨリ17.6%ノ間ニ動搖スレドモ平均8.14%ニシテ人口1萬人ニ對スル結核死亡率ハ13.95ニシテ昭和12年内閣統計局ヨリ發表セラレタル全國各府縣結核死亡比較表ニ照合スルニ全國平均1萬人ニ對スル20.7並ニ新潟縣ノ18.5ヨリ遙カニ低率ニシテ全國ニ於ケル最低位

附表第5 浦本村＝於ケル年度別
結核死亡者調査表
(浦本小學校長ノ調査ニ依ル)

年 別	全死亡者 死數	結核死亡者 核數	人 口	全死亡者 對スル結 核死	人口1萬 ニ對スル 結核死
昭和2年	55	2	2,274	3.63%	8.79
昭和3年	54	1	2,904	1.85%	3.44
昭和4年	71	5	2,914	7.04%	17.15
昭和5年	51	5	2,485	9.80%	20.12
昭和6年	74	6	2,593	8.10%	29.13
昭和7年	42	2	2,599	4.76%	7.69
昭和8年	50	8	2,627	16.00%	30.09
昭和9年	68	12	2,658	17.64%	45.14
昭和10年	48	1	2,366	2.08%	4.22
昭和11年	52	4	2,377	7.69%	16.82
計	565	46	25,797	8.14%	13.95

ノ部ニ屬セリ。

中濱區＝於ケル最近8箇年間＝於ケル死亡者
ニ就キテ診斷書ニ依リ調査スルニ(附表第6參
照)死亡者合計96名中11名ハ結核性疾患ニテ死
亡セリ(11.46%)。

年次別ニコレヲ見ルニ昭和8年ノ全死亡者16
名中結核死5名(31.25%)ガ最高ニシテ昭和9
年ニ3名,12年1名,13年ニ2名ニシテ其他ノ
年ニハ結核死亡ヲ認メズ。コレヲ北海道東俱知

附表第6 中濱區＝於ケル年度別
結核死亡者調査表

年 度 別	全 死 亡 者 數	結 核 死 亡 者 數
昭和7年	6	0
昭和8年	16	5
昭和9年	14	3
昭和10年	7	0
昭和11年	18	0
昭和12年	18	1
昭和13年	11	2
昭和14年	6	0
計	96	11

全死亡者ニ對スル結核死亡率 11.46%
註,本表ハ火葬認可證下附願綴ニ依ル。

安村⁽²⁾ニ於ケル全死亡ニ對スル結核死亡13.5
%,石川縣三谷村⁽³⁾ノ12.55%,岩手縣世田米
村⁽⁴⁾ノ20.3%,福井縣平地部⁽⁵⁾ノ14.09%,同
山間部ノ18.42%ニ比スレバ低率ニシテ岩手縣
志和村ノ7.59%ニ比スレバ僅カニ高率ナリ。更
ニ結核死亡者ノ年齢並ニ性別ニツキテ觀察スル
ニ死亡者11名共ニ女性ニシテ15歳以上30歳以下
ノ者9名,50歳以上ノ者2名ナリ。コレ本村ノ
職業ノ特種性ニ鑑ミ極メテ意義深キ事實ナリ。

第3章 マントー氏反應ニ就テ

マントー氏反應(以下「マ」氏反應ト略記ス)ノ
術式ハ「ツベルクリン」ノ稀釋倍數反應度ノ成績
判定ニ關シ未ダ統一サレズ實施者ニ依リテ區々
タルノ觀アリ。

余等ハ傳染病研究所發賣ノ「ツベルクリン」
ヲ使用シ就學前ノ幼兒ニ對シテハ2千倍稀釋液
0.05cc,小學校兒童ニ對シテハ0.1cc,14歳以上
ノ者ニ對シテハ1千倍稀釋液0.1ccヲ前膊内側
皮内ニ注射シ48時間後ニ於ケル發赤又ハ腫張ノ
直徑5mm以上ノ者ヲ陽性トナセリ。

(1) 小學校兒童ニ就テ行ヘル成績

浦本尋常高等小學校兒童ノ内中濱區ヨリ通學

附表第7 中濱區就學兒童ニ就テ
行ヘル「マ」氏反應成績

年 齡 別	學 年 別	被 檢 者 數	「マ」 氏反應 陽性者 數	陽 性 率
7-9	尋一及尋二	36	2	5.55%
10-11	尋三及尋四	26	3	11.54%
12-13	尋五及尋六	39	5	12.82%
14-15	高一及高二	22	5	22.73%
計	男 兒	67	9	13.44%
	女 兒	56	6	10.71%
	男 女 計	123	15	12.19%

セル者128名中123名ニツキテ「マ」氏反應ヲ檢スルニ男兒童67名中9名(13.44%)、女兒童56名中6名(10.71%)、陽性ニシテ兩者ヲ合スレバ123名中15名即チ12.19%ニ陽性成績ヲ示セリ(附表第7參照)。

コノ成績ヲ福井縣下ニ於ケル古屋氏⁽⁵⁾ノ成績ト比較スルニ最低率ナリシ若狹地方ノ13.45

%ヨリ更ニ1.3%低ク中村氏等⁽³⁾ニ依リテ調査セラレタル石川縣三谷村ノ成績ヨリハ(11.3%)僅カニ高率ナリ。然レ共附表第8ニ示ス本邦各地ノ農山漁村ニ於テ實施セラレタル學童ノ「マ」氏反應成績ト比較スルトキハ低率ノ部ニ屬セリ。

附表第8 本邦地方別ニヨル小學兒童ノ「マ」氏反應陽性率

報告者	調査セン農漁村小學校	陽性率
有馬, 金井 ⁽⁸⁾	北海道農村	7.25%
岡田 ⁽⁹⁾	帶廣市附近農村	25.6%
木村等 ⁽¹⁰⁾	札幌市附近農村	21.9%
小原 ⁽¹¹⁾	岩手縣二子村	9.2%
石田外 ⁽¹²⁾	宮城縣下小學校	11.9%
新井 ⁽¹³⁾	東京府下農村	18.8%
有馬, 安達等 ⁽¹⁴⁾	石川縣下農村	尋16.6%高26.6%
今村 ⁽¹⁵⁾	奈良縣下山村	14.2%
同	香川縣下農村	11.7%
井上 ⁽¹⁶⁾	福岡縣下地方	24.8%
中村外 ⁽³⁾	石川縣三谷村	11.3%
同 ⁽⁴⁾	岩手縣世田米村	25.79%
同	同 川口分教場	11.9%
同	大股小學校	10.3%
中村外 ⁽⁶⁾	岩手縣志和村	15.32%
岡田外 ⁽¹⁷⁾	宮城縣愛島村	15.0%
今村 ⁽¹⁵⁾	福岡縣下農漁村	16.8%
楠外 ⁽¹⁸⁾	宮城縣荒雄村	{ 昭13年 8.1% 昭14年
同	同	5.5%
古屋 ⁽⁵⁾	福井縣下海山部	16.65%

次ニ學年別ニ依ル陽性度ヲ檢スルニ學年ノ進ムニ伴ヒ即チ年齢ノ増加ト共ニ陽性率ノ上昇スルヲ認ム。

コノ成績ハ古屋氏等⁽⁵⁾ノ福井全縣下ニ亙ル學童ノ「マ」氏反應陽性率ト學年トノ關係ト全然同一歩調ヲ辿ルモノニシテ北海道ニ於テ施行セラレタル有馬内科教室⁽²⁾⁽⁷⁾⁽⁸⁾ノ農村ニ於ケル學童ノ「ツバクリン皮内反應」陽性率ハ年齢ト一定ノ關係ナシトセラレタル成績ト相反ス。

(2) 一般住民ニ於ケル成績

區民全員中「マ」氏反應ヲ施行シ得タルハ375名ニシテソノ成績ハ附表第9ニ示スガ如ク男子178名中59名(33.15%)、女子197名中86名(43.65%)ニシテコレヲ通算スルトキハ實ニ38.67%ノ陽性率トナル。

而シテ各年齢別ニコレヲ觀ルニ小學校兒童ニ於ケル如ク年齢ノ増加ト共ニ陽性率ノ上昇スル事ハ一般ニ報告セラレタル處ニ一致セリ。

附表第9 年齢別 Mantoux 反應陽性率

年 齡 別	被 檢 人 員			Mantoux 反應度 (mm)								Mantoux 反 應 陽 性 率 (6 mm 以上)			%
				1-5		6-10		11-25		26人		實 數			
	♂	♀	計	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	計	
1-5歳	19	15	34	1											
6-10	34	26	60	2	3			3							
11-15	38	32	70	7	4	2	1	4	4			12	11	23	14.93
16-20	13	11	24	3	1			3	6			(14.12)	(15.94)		
21-25	3	7	10	2	1		1	1	4			3	7	10	41.67
26-30	5	9	14		3	1		1	2			(37.5)	(43.75)		
31-35	3	14	17	1	1		1	1	7		1	8	19	27	64.29
36-40	11	14	25	1	2		2	7	8			(57.15)	(67.85)		
41-45	12	17	29	3		2	3	5	9			13	19	32	66.67
46-50	9	10	19	2	1	2	2	4	4		1	(61.9)	(70.37)		
51-55	6	11	17	1	5	1	1	4	2		1				
56-60	5	8	13	1		1	1	2	4						
61-65	10	11	21	1		1	2	5	8			23	30	53	72.6
66-70	6	9	15			1	4	5	4		1	(74.19)	(71.43)		
71-75	1	2	3	1					1						
76-85	3	1	4			2		1	1						
計	178	197	375	26	21	13	18	46	64		4	59	86	145	38.67
												(33.15)	(43.71)		

而シテ21歳ヨリ50歳ニ至ル年齢ノ者ニアリテ
ハ常ニ女子ニ於テ高率ニ陽性反應ヲ呈スルヲ認
メタリ。
今既ニ報告セラレタル農漁村ノ一般住民ニ對

スル「マ」氏反應ノ成績ヲ觀ルニ附表第10ニ示ス
如クニシテ、北海道ニ於ケル成績ヲ除外スレバ
中濱區ニ於ケル成績ハ一般ニ高率ナリ。
然レドモ小學生ニ於テハ比較的低率ナルニ依

附表第10 本邦地方別農村一般住民ノ「マ」氏反應陽性率

報 告 者	年 號	場 所	被檢者	陽 性 %	備 考
星圭 ⁽¹⁹⁾	昭和12年	宮城縣愛島村	2928	(690)24.9%	但小學生 525 名中39名 { (+)(7.25%)ヲ加ヘル (トキハ18.5%トナル
同	昭和13年	同	2413	(629)28.3	
	昭和12年	山形縣飯塚村	1004	(368)36.6	
楠外 7 氏 ⁽¹⁸⁾	昭和13年	宮城縣荒雄村	2067	(497)24.0	
中村外 6 氏 ⁽³⁾	昭和14年	石川縣三谷村	3062	(1087)35.5	
中村外 5 氏 ⁽⁴⁾	同	岩手縣世田米村	4162	(1594)38.1	
中村外 7 氏 ⁽⁶⁾	同	岩手縣志和村	4567	(1483)32.5	
有馬, 金井 ⁽⁸⁾	同	北海道東〇琴	194	(94)48.4	
有馬, 金井, 笠井 ⁽²⁾	同	北海道東俱利安村	1159	(514)44.3	
岡田外 3 氏 ⁽¹⁷⁾	同	宮城縣愛島村	2502	(812)32.4	
楠外 7 氏 ⁽¹⁸⁾	同	宮城縣下荒雄村	1757	(439)24.4	

リ本村ノ職業上ノ特殊性ニ鑑ミ小學校卒業後ニ於テ汚染セラル、爲ナラン事ヲ想像シ16歳以上50歳未滿ノ女性ニシテ在村セルモノ83名ニツキテ既往ニ於ケル女工トシテノ出稼ノ有無ト「マ」氏反應ヲ觀察スルニ左記ノ如ク女工ノ既往歴ヲ有スル者ニ於テ高率ナルヲ知ル。

1. 女工ノ既往歴無キ者 32名
 - 「マ」氏反應陽性 19名 (59.4%)
 - 「マ」氏反應陰性 13名 (40.6%)
2. 女工ノ既往歴有ルモノ 51名
 - 「マ」氏反應陽性 35名 (68.6%)
 - 「マ」氏反應陰性 16名 (31.4%)

次ニ現在結核患者ヲ有スル家族ト過去ニ於テ結核死亡者ヲ出セル家族並ニ其等ノ家族歴ナキ者トノ3組ニ分ケテ「マ」氏反應ノ陽性率ヲ觀ルニ附表第11ニ示スガ如ク結核患者ヲ有スル家族

附表第11 家族別ニヨル「マ」氏反應陽性率

家族別	家族數	被檢者數	「マ」氏反應陽性反實數	陽性率
結核スル家族有ル者	20	97	51	52.47%
結核死亡者セシ家族有ル者	12	40	18	45.0%
結核患者ナキ家族有ル者	61	255	100	39.21%

ニ於テ最高率ヲ示セリ。

更ニ要圖ニツキテ結核患者並ニ結核死亡者ヲ出セル家族ト「マ」氏反應陽性者ニツキテソノ住居ノ關係ヲ觀ルニ比較的相關聯シテ密集セルヲ認メシム(要圖1参照)。

第4章 赤血球沈降速度ニ就テ

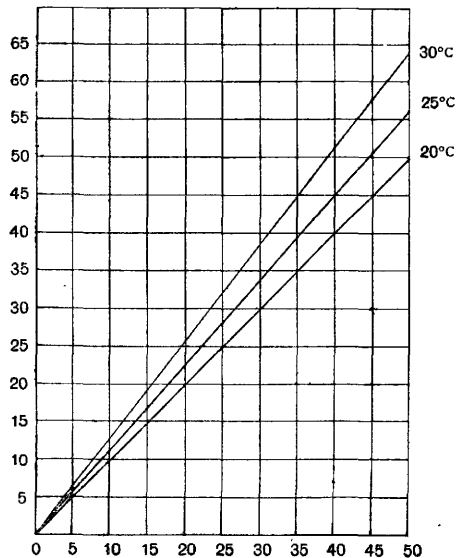
赤血球沈降速度ハウエスターグレン氏法ニ依リ室温25度乃至28度ノ間ニ於テ檢シ1時間値ヲ以テ判定セリ。

赤血球沈降速度ヲ檢セシハ被檢人員484名中390名ナリ。本反應ハ既ニ熊谷教授⁽³²⁾モ發表セラレタル如ク溫度ノ上昇ニ伴ヒテソノ値促進スルヲ以テ別圖ノ如キ「グラフ」ヲ實驗ニ依リ作製シソレニヨリテ攝氏20度ニ於ケル値ニ補正シ以テ成績ヲ檢討セシニ年齢別ニ依ル成績ハ附表第13ニ示スガ如ク余等⁽³⁰⁾ノ教室ニ於テ從來正常値ト見做セル1時間値12mm以下ヲ示セルモノハ390名中225名即チ(57.69%)ニシテ他ノ165名ハ總テ正常値ヲ凌駕セリ。

次ニ余等ハ試ニ先ニ⁽³¹⁾秋月及ビ星ニ依リテ作成セラレタル健康人赤血球沈降速度表ニ依リ生理的的最大値ヲ超過セル者ヲ檢セシニ附表第14ニ示スガ如ク390名中64名即チ16.4%ニ於テ尙生理的的最大値ヲ超過セリ。コノ成績ヲ「レントゲン」所見ト比較セシニ胸部所見ト一定ノ關係ヲ認メズ殊ニ全然所見無キ者13例ニ於テモ促進セルヲ認メタリ。

更ニ寄生蟲ト赤沈價トノ關係ヲ明ニセシガ爲ニ浦本小學校全兒童ノ糞便檢査ヲ施行シ50.32%ニ於テ寄生蟲卵ヲ認メタリ。而シテ附表第15

附表第12 赤血球沈降速度校正表



附表第12 男女年齢別赤血球沈降速度成績表

年 齡 別	被 検 者			正 常 値 ヲ 示 ス 者				赤 沈 促 進 者										促 進 者 計			
				1-12mm				13-20		21-30		31-40		41-50		51以上		13mm以上			
	♂	♀	計	♂	♀	計	%	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	計	%		
6-10	26	26	52	11	17	28	53.9	9	4	4	4	1	1			1		15	9	24	46.1
11-15	42	40	82	28	22	50	61.0	12	13	2	4		1					14	18	32	39.1
16-20	18	19	37	15	8	23	62.2	3	7		3	1						3	11	14	37.8
21-25	6	10	16	4	5	9	56.3	1	2	2		1	1					2	5	7	43.7
26-30	6	12	18	5	5	10	55.6	1	3	1		2				1		1	7	8	44.4
31-35	4	13	17	4	7	11	64.7		4			2							6	6	35.3
36-40	12	16	28	10	4	14	50.0		8	2	2						2	2	12	14	50.0
41-45	13	16	29	13	10	23	79.3		1	2		2				1			6	6	20.7
46-50	11	11	22	8	9	17	77.3	3	1			2	1					3	2	5	22.7
51-55	9	14	23	8	7	15	65.2	1	1			1		1			2	1	7	8	34.8
56-60	5	8	13	4	2	6	46.2	1	2		3	1						1	6	7	53.8
61以上	28	25	53	14	5	19	35.8	6	11	4	2	3	4	1			3	14	20	34	64.2
計	180	210	390	124	101	225	57.7	37	57	10	25	6	17	2	1	1	9	56	109	165	42.3
總 計	390			225				57.69%	94		35		23		3		10		165		42.31%

附表第14 生理的最大値ヲ超過セル者「X」線所見トノ比較

性別	年齢別	生最大的値	検査人員	生大過 理値セ ル最 超者	%
男	6-15歳	16.2	68	16	23.5
	16-20	8.9	18	5	27.8
	21-30	7.8	12	3	25.0
	31-40	11.4	16	2	12.5
	41-50	13.6	24	1	4.2
	51歳以上	27.0	42	3	7.1
女	6-15歳	21.7	66	9	1.4
	16-20	16.5	19	3	15.8
	21-30	22.3	22	5	22.7
	31-40	24.2	29	6	20.7
	41-50	24.7	27	5	18.1
	51歳以上	40.6	47	6	12.8
男子 計			180	30	16.7
女子 計			210	34	16.2
總 計			390	64	16.4

V 2,3 8 9 17
 IB 2, 3, 11 12 23
 O. B. 6 7 13
 進行性變化 6 5 11
 ♂ ♀ 計 64

註 V 2, 3, 等ハ Rehberg ノ分類ヲ示ス.

ニ示ス如ク第3學年ヲ界トシテ急激ニ蟲卵陽性者ヲ増加シ50%以上ノ發見率ヲ示セリ. 蟲卵中最モ多キハ蛔蟲ニシテ23.4%, 次ハ十二指腸蟲ニシテ12.82%ノ陽性率ヲ示セリ. 此處ニ於テ中濱區ヨリ通學セル生徒94名ニツキテ寄生蟲卵ト赤沈トノ關係ヲ檢セシニ第16表ニ示セシ如ク, 貧血ヲ認メタル兒童ニアリテハ促進ヲ認メタルモ其他ノ者ニアリテハ寄生蟲トハ何等特別ノ關係ヲ示サズ依テ蟲卵檢索成績モ亦赤沈促進ニ對スル説明ノ何等ノ根據トモ成シ得ザリキ.

今回ノ集團檢診ノ結果發見セラレタル結核要
 注意者並ニ患者ハ31名ニシテソノ内8歳以下ノ者3名ヲ除キ, 28名ニツキテ赤沈速度ヲ觀ルニ内10名ハ12mm以下ノ價ヲ示シ6名ハ生理的
 最大値以下ノ價ヲ示セリ. 而シテ16名中9名ニ於テハ37度以上38度以下ノ微熱ヲ有セリ.

以上ノ成績ニ依リ集團檢診ニ際シ結核患者ノ發見ニ對シテハ本反應ハ熊谷, 有馬兩教授⁽²²⁾ノ說ノ如ク左程重要ナル役割ヲナサザル事ハ余等モ亦經驗セリ. コノ點ニ關シテハ更ニ詳細ニ後述スル處アル可シ.

附表第15 浦本小學校寄生蟲卵検査成績

學年	性別	被檢人員	計	蛔蟲	十二指腸蟲	鞭蟲	東洋線毛蟲	蟲印計
尋一	♂	17	38	0 } 3	1 } 4	0 } 1	2 } 2	10 (26.3%)
	♀	21		3 } 3	3 } 4	1 } 1	0 } 0	
尋二	♂	24	51	2 } 7	1 } 5	1 } 1	0 } 1	14 (27.5)
	♀	27		5 } 5	4 } 5	0 } 1	1 } 1	
尋三	♂	24	47	9 } 13	3 } 6	4 } 5	3 } 4	28 (59.6)
	♀	23		4 } 4	3 } 6	1 } 5	1 } 4	
尋四	♂	19	38	7 } 11	3 } 4	2 } 5	0 } 1	21 (55.3)
	♀	19		4 } 4	1 } 4	3 } 5	1 } 1	
尋五	♂	18	44	6 } 13	2 } 7	2 } 4	0 } 0	24 (54.5)
	♀	26		7 } 7	5 } 7	2 } 4	0 } 0	
尋六	♂	17	39	2 } 7	3 } 6	3 } 4	0 } 2	19 (48.7)
	♀	22		5 } 5	3 } 6	1 } 4	2 } 2	
高一	♂	20	30	7 } 10	5 } 6	6 } 9	0 } 0	25 (83.3)
	♀	10		3 } 3	1 } 6	3 } 9	0 } 0	
高二	♂	21	25	7 } 9	2 } 2	3 } 3	0 } 2	16 (64.0)
	♀	4		2 } 2	0 } 2	0 } 3	2 } 2	
計		312		73 (23.4%)	40 (12.8)	32 (10.3)	12 (3.8)	157 (50.3)

附表第16 寄生蟲ト赤血球沈降速度トノ關係

姓名	反氏應	赤沈	蟲卵	體溫	「X」所見貧血
田川	ヒ清	(-) 12	蛔	36.4°C	IB. 2. 3. -
大池	菊	(-) 6	〃	7.0	IB. 2. 3. -
田池	菊	(-) 26	〃	7.3	O. B (+)
田池	勝	(-) 18	〃	6.8	IC. 2. (+)
田池	勝	3×4mm 14	〃	6.7	IB. 3. -
田池	幸	(-) 7	〃	6.6	O. B -
田池	正	(-) 27	〃	7.0	O. B (+)
田池	イ	(-) 7	〃	6.2	O. B -
田池	イ	(-) 4	〃	7.0	IB. 3. -
大田	健	(-) 21	〃	6.7	IB. 2. 3. (+)
大田	義	15×15 9	〃	7.2	IB. 2. 3. (-)
田池	ハ	(-) 9	蛔 鞭	7.1	O. B -
田池	葉	(-) 8	〃	7.5	IB. 2. 3. -
田池	里	(-) 9	十二指腸	7.1	IB. 2. 3. -
田池	助	(-) 12	〃	6.5	O. B -
田池	嵐	(-) 9	〃	6.8	IB. 3. -
田池	健	(-) 9	〃	8.9	IB. 3. -
田池	芳	3×3 11	〃	6.7	IB. 2. 3. -
田池	嘉	(-) 14	〃	7.3	IB. 2. 3. (+)
田池	福	(-) 13	〃	6.8	O. B (+)
田池	川	(-) 6	〃	6.9	IB. 3. (-)

田 俊	(-)	9	//	7.2	IB. 2. 3.	-
田 レ	(-)	6	//	7.8	IB. 2. 3.	-
福 順	(-)	15	//	6.5		-
長 ヒ	14×17	9	//	6.9	IB. 3.	-
林 ツ	(-)	9	//	6.8	IB. 2. 3.	(-)
福 キ	5×6	18	//	6.2	IB. 2. 3.	(+)
田 忠	(-)	7	//	7.1	IB. 2. 3.	-
川 イ	(-)	8	十二指蝸	6.2	IC. 3.	-
田 正	(-)	17	//	6.3	IB. 2. 3.	(+)
木 忠	(-)	12	//	6.7	O. B	-
大 忠	(-)	21	//	6.7	O. B	(+)
木 政	(-)	6	十二、蝸鞭	6.4	O. B	-

第5章 「レントゲン」検査成績

「レントゲン」検査ハ携帯用装置ニ依リ止ムヲ得ザル事情ニ依ルニ不参者ヲ除キ全員ニ就キ寫眞撮影ヲ行ヒテ檢セリ。撮影セシ「フキフィルム」455枚ニツキ Rehberg⁽²³⁾ノ分類ニ從ヒテ檢スルニ結核要注意者若シクハ結核患者ト認ム可キ者31名ニシテ總被檢人員ノ6.4%ニ相當セリ。

コレヲ熊谷内科⁽²⁴⁾ノ農村ニ於ケル結核患者發見數ト對比スレバ極メテ高率ナリ(附表17, 18参照)。而シテ全然變化ヲ認メザル者ハ125名ニシテ27.17%ニ相當セリ。

肺門部淋巴腺ノ腫張ヲ認ムルモノハ最も多ク172例ニシテ37.39%ニ當リ内5例ハ進行性ノ状態ニアリ。

結節性硬變性結核ノ像ハ125例ニ認メ26.96%ニ當リ内進行性變化ヲ有スル者7例、空洞ヲ有スル者9例ヲ認メタリ。初期結核ニシテ初期變化群ヲ認メタルモノハ7例、浸潤性ノ像ヲ呈セシ者13例アリテ内1例ニ空洞ヲ證明セリ。尙14例ニ肋膜ノ癒着ヲ5例ニ氣管支周圍炎ヲ證明セリ。

以上ノ變化ヲ年齢別ニミルニ10歳以下ノ小兒ニハ所見比較の少キモ11歳ヨリ急激ニ増加セリ(附表第19)。

次ニ「マ」氏反應ト「レントゲン」寫眞像トヲ比較スルニ附表第20ニ示ス如ク被檢人員383名中兩者ノ成績陽性ニシテ一致セルモノハ158名、陰性ニシテ一致セルモノ102名、合計260名、即チ67.89%ニ相當セリ。

「マ」氏反應陰性225名中X線像ニ於テ結核性變化ヲ認メタルモノハ54.67%即チ123名ニシテ全員ノ32.12%ニ相當シ、コノ内10名ニハ進行性變化ヲ有シ他ハ總テ硬變性變化又ハ石灰化竈ヲ認ムル者ニシテ(附表第21参照)就中石灰化竈ヲ有スルモノハ Koch⁽²⁵⁾, Viethen⁽³⁰⁾, 今村⁽²⁶⁾, ⁽²⁷⁾寺島, 宮川⁽²⁸⁾, 岩波⁽²⁹⁾, 中村⁽³⁾等ノ所謂「ツベルクリン」陽性アレルギーニ相當スルモノナラン。

次ニ小學兒童ニシテ「マ」氏反應陽性ヲ示セル

附附表17 文獻ニヨル患者發見%ト

「マ」氏反應陽性率トノ關係

檢 査 年 次	村 名	檢員 査 入 數	「マ」氏反 應 陽 性		結核患 者 數	
			實數	%	實數	%
昭 12	愛 島 村	2928	690	24.9	102	3.5
昭 13	同	2413	629	28.3	70	2.9
昭 12	飯 塚 村	1004	368	36.6	32	3.2
昭 13	荒 雄 村	2067	497	24.0	22	1.06
昭 14	三 谷 村	3062	1087	35.5	36	1.19
昭 14	世 田 米 村	4162	1594	38.1	104	2.50
昭 14	志 和 村	4567	1483	32.5	62	1.36

附表第18

X寫眞變化 年齢別	O.B		IBbc 2. 3.		IBab 1		Vbc 2. 3.		Vab 1		VK(+)		IAC 2. 3.		ICIII 1. 2.		VIII b		Peribro	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
76-80歳	1	1					2													
71-75	0	0	1	2			1										1			
66-60	0	0	2	3			4	5								1	1			
61-65	0	0	7	1			5	7					1			1	2			
56-60	0	0	3	1			1	3				2								1
51-55	0	3	6	4			3	4		2							2	1	1	1
46-50	0	2	6	2			7	5												1
41-45	3	2	7	2			2	10			1	1				1	2			
36-40	1	1	6	6			2	7		1	1	1	1				1			1
31-35	1	1	1	4			1	6		2			1		1					
26-30	3	2	1	3			2	4		1			1							
21-25	1	0	3	7			1	3				2						2		
16-20	8	3	2	5			7	12				1	1			2				
11-15	6	10	28	18	1		4	7	1			1			2	2				
6-10	21	18	15	13	4			1						1	3					
1-5歳	16	16	6	2										1	2					
計	62	59	95	71	5	0	41	68	1	6	1	8	2	5	5	8	3	11	1	4
總計	121		166		5		109		7		9		7		13		14		5	

附表第19 年齢別「X」線寫眞所見成績表

年齢別	被檢者			「X」所見陰性者				「X」所見陽性者			
	♂	♀	計	♂	♀	計	%	♂	♀	計	%
1-10歳	65	52	117	37	34	71	60.7	28	18	46	39.3
11-20歳	59	55	114	14	13	27	23.7	45	42	87	76.3
21-30歳	11	22	33	4	2	6	18.2	7	20	27	81.8
31-40歳	14	33	47	2	2	4	8.5	12	31	43	91.5
41-50歳	27	26	53	3	4	7	13.2	24	22	46	86.8
51-60歳	17	23	40	3	3	6	15.0	14	20	34	85.0
61歳以上	26	25	51	3	1	4	7.8	23	24	47	92.2
計	219	236	455	66	59	125	27.47	153	177	330	72.53

15名ニツキテX線像ヲミルニ附表22ニ示ス如ク1名ヲ除ク他ハ全員初期變化或ハ結節性硬變性上葉結核ノ像ヲ認メタリ。

尙本表ニ於テモ赤血球沈降速度ト「マ」氏反應並ニ「X」線寫眞所見トハ一致セズ且「マ」氏反應陽性兒童ヲ有スル家庭ニ於テハ更ニ數名ノ「マ」

氏反應陽性者或ハ患者ノアルコトヲ知ル。

次ニ小學校卒業後50歳未滿ノ女性83名ニツキテ女工トシテノ既往歴ノ有無ニ依リ「レントゲン」寫眞像ヲ檢討スルニ左記ノ如ク女工ノ既往歴ヲ有スルモノハ90.2%ニ結核性變化ヲ認ムルニ反シ既往歴無キ者ハ71.88%ニ過ギズ、コレ「マ」

附表第20 被検人員 383 名ニ對スル「マ」氏反應ト「レ」線寫眞所見トノ比較

所見區分	M(+)	X(+)	M(-)	X(+)	M(-)	X(-)
男女別	男	女	男	女	男	女
年齢別	男	女	男	女	男	女
81—85歳	1					
76—80	2	2				
71—75		1	1	1		
66—70	6	7			1	
61—65	8	10	2		2	1
56—60	4	5	1	2	2	1
51—55	7	5	1	3		3
46—50	10	6	1	3		1
41—45	7	10	4	1	2	4
36—40	7	13	2	2	1	
31—35	1	8	1	4	1	1
26—30	2	3		5	3	1
21—25	2	5		3	1	
16—20	3	6	5	3	7	2
11—15	7	5	26	19	6	9
6—10	3	1	14	12	17	15
1—5歳	1		6	1	10	11
計	71	87	64	59	53	49
	158		123		102	

附表第21 「マ」氏反應陰性「X」所見陽性者ニ對スル統計

性別	「X」所見 年齢別	IB 2. 3.			V 2. 3.			VIII b	IC
		b	c	計	b	c	計		
男	1—10歳	18	3	21	0	0	0		2
	11—20	14	7	21	7	0	7		
	21—30	0	0	0	0	0	0		
	31—40	2	3	5	0	0	0		
	41—50	0	4	4	0	0	0		
	51—60	0	0	0	1	0	1		
	61以上	0	2	2	1	0	1		
計		34	19	53	9	0	9		2
女	1—10歳	8	1	9	0	1	1		2
	11—20	9	6	15	3	1	4		2
	21—30	1	2	3	1	1	2		
	31—40	4	1	5	2	0	2		
	41—50	1	0	1	2	0	2		
	51—60	2	1	3	3	0	3	2	
	61以上	0	1	1	1	0	1	1	
計		25	12	37	12	3	15	3	4
總計		90			24			3	6

被検總數 123 例

附表第22 「マ」氏反應陽性兒童ニ對スル調査成績

姓 名	年 齡	「マ」 氏反應 成績	血 沈 價	「X」線寫眞所見	家 族			家 族 番 號
					家 族 數	「マ」 氏陽性 反應者 數	結 核 者 性 數	
田 ン	8	5×5	22	D, IB, b, 2.	4	4	0	3
田 義	9	15×15	11	D, IB, b, c, 2.	5	4	0	25
川 松	10	12×14	17	D, IC, b, 1.	7	2	1	57
柳 和	10	12×13	28	D, IB, b, 1.	8	3	5	81
田 チ	11	10×18	16	D, IB, b, 2.	4	4	0	3
田 秀	13	14×15	12	L, IB, b, 2.	4	2	0	23
嵐 喜	13	14×20	12	D, IB, b, 2.	6	3	0	65
木 光	13	10×10	17	D, IB, b, 2.	7	2	0	71
長 ヒ	13	14×17	9	不 檢	3	2	0	76
柳 昭	13	10×12	20	D, IC, b, 1.	8	3	5	81
福 キ	14	5×6	18	D, IB, b, 2.	5	5	1	30
福 チ	14	13×16	26	L, V2°, b, 2.	6	2	0	33
田 太	15	5×6	8	D, V2°, b, 2.	7	3	0	14
田 定	15	18×18	4	R, IB, c, 3.	3	3	0	15
田 イ	15	16×19	10	L, V2°, b, 3.	6	5	0	83

氏反應ノ成績ト對比シ極メテ興味アル事實ナリ。

女工ノ既往歴無キ者 32名。

「X」所見陰性 9名 (28.12%)

「X」所見陽性 23名 (71.88%)

女工ノ既往歴有ル者 51名。

「X」所見陰性 5名 (9.8%)

「X」所見陽性 46名 (90.2%)

更ニ「X」線所見陽性者トソノ住居ニツキテ要圖ニ依リ觀察スルニ「マ」氏反應ノ如ク著明ナラザレドモ比較的陽性者ノ密集セルヲ認メシム(要圖2参照)。

第6章 中濱區ニ於テ發見セシ結核患者ニ就テ

余等ハ今回ノ集團檢診ニ於テ諸調査事項ヲ綜合判定シ結核患者ト見做セシ者ハ31名ニシテ年齡別ニコレヲ見ルトキハ各年齡層ニ於テ認ムルモ殊ニ30歳以下ノ者ニ於テ3分ノ2ヲシムル状態ナリ。更ニ性別ニツキテ觀察スルニ男子10名、女子21名ニシテ而モ16歳以上ノ者ハ1名ヲ除ク他ハ總テ女性ナル事ハ實ニ注目スベキ事實ナリ(附表23参照)。

檢査時ニ於ケル體溫ハ13名ニ於テハ37度以下ノ常溫ヲ示セドモ他ハ總テ微熱ヲ有シ37度ヨリ38度ノ間ニアリ。

「マ」氏反應ニ就テミルニ16歳以上ノ患者ニア

リテハ内2名、疑陽性反應ヲ示セルモノアルノミニテ他ハ總テ強陽性ヲ呈セリ。然レドモ14歳以下ノ患者13名中8名ハ陰性ナリ。ソノ理由ニ關シテハ今村教授⁽³¹⁾ノ所謂不全「アレルギー」ト認ム可キナラン。

次ニ赤血球沈降速度ヲ檢セシ28名中12mm以下ニシテ正常値ヲ示セル者10名、13乃至30mmヲ示セル者ハ12名ニシテ31mm以上ニシテ明カニ促進セル者ハ6名ナリ。而シテ「マ」氏反應、體溫、X線所見トハ何等一定ノ關係ナク而モ正常範圍内ニアル者ノ中5名ノ有熱者ヲ含メリ。而シテ本反應ハ附表第24ニ表ス如ク胸部ニ

附表第23 結核患者検査表

家番 族號	姓 名	性	年 齡	「マ」 氏應	血 沈 値	體 溫	「レントゲン」所見
93	林 義	♂	4	(-)		37.6	L. IC. a. K(-), 1
81	神 一	♀	5	(-)		37.7	D. IC. b. K(-), 1
81	神 正	♀	7	(-)		37.7	D. IC. b. K(-), 1
89	万 秀	♂	8	(-)	31	36.6	D. IB. b. K(-), 1
93	林 富	♂	9	(-)	27	37.0	L. IB. b. K(-), 1
57	川 松	♂	10	12×14	17	37.2	D. IC. b. K(-), 1
74	長 久	♂	10	8×8	15	37.8	D. IB. b. K(-), 1
81	神 和	♂	10	12×13	28	37.2	D. IB. b. K(-), 1
64	川 ヒ	♀	11	9×7	9	38.0	D. V2°. a. K(+), 1
81	神 愛	♀	12	(-)	25	37.9	D. IC. b. K(-), 1
86	大 敬	♂	12	(-)	19	37.1	D. IB. b. K(-), 1
81	神 昭	♂	13	10×12	20	37.7	D. IC. b. K(+), 1
90	齋 三	♂	14	(-)	8	37.6	D. V2°. ab. K(-), 1
7	田 初	♀	16	10×15	14	36.5	R. IA. c. K(-), 1
46	繩 夕	♀	18	21×22	16	36.8	D. V3°. ab. K(+), 1
56	本 初	♀	19	20×18	13	37.3	L. IIIB. a. K(-), 1
89	万 ヨ	♀	20	10×13	33	37.3	D. IIIB. ab. K(-), 1
41	繩 サ	♀	21	11×9	10	36.8	D. V3°. bc. K(+), 2
46	繩 チ	♀	23	3×3	7	36.4	D. V2°. b. K(+), 2
91	下 チ	♀	30	19×19	50	37.2	D. V2°. ab. K(-), 1
79	山 ヨ	♀	31	14×14	10	37.8	D. V3°. b. K(-), 1
60	川 キ	♀	32	9×9	12	37.5	D. V2°. b. K(-), 1
81	神 ヲ	♀	35	13×13	11	37.5	R. IIIA. c. K(-), 2
86	大 ヤ	♀	38	10×12	60	37.0	D. V2°. b. K(-), 1
51	池 松	♀	40	12×12	8	36.8	D. V3°. b. K(+), 2
64	川 傳	♂	40	15×17	11	37.1	L. V2°. c. K(+), 2
70	木 ハ	♀	43	14×20	7	36.1	L. V3°. b. K(+), 2
94	樋 ハ	♀	53	4×4	41	36.8	R. V2°. b. K(-), 1
71	木 ツ	♀	55	15×13	122	36.7	D. V3°. b. K(-), 1
91	下 カ	♀	57	11×12	30	37.0	D. V2°. bc. K(+), 1
47	池 ミ	♀	58	14×18	16	36.7	L. V3°. c. K(+), 2

全然所見無キ者ニ於テモ 30.4%ニ促進者ヲ認ムルノミナラズ胸部所見著明ナルモノニ於テモ屢々正常値ヲ示スヲ以テ結核ノ病勢又ハ豫後判定ノ爲經過ヲ追ヒテ檢スルハ極メテ重要ナル意義ヲ有スレドモ集團檢診ノ爲患者發見ノ第1目標トシテ本反應ヲ用フル事ハ極メテ不合理ナリト云ハザル可ラズ。

上記ノ成績ヨリ集團檢診ニ際シ「マ」氏反應、赤沈反應又ハ體溫測定ノ何レカーツノミヲ目標トシテ檢診ヲ行ヒソノ陽性者ノミニ就キテ「レ

ントゲン」寫眞撮影ヲ行ヒタリトセバ夫々10例、13例、10例ヲ見落シタルナラン。而シテ三檢査ヲ行ヘル28例ニツキテ各反應ノ組合セニ依ル成績ヲ考察スルニ「マ」氏反應ト赤沈檢査ヲ併用セル場合2例、「マ」氏反應ト體溫測定ト併用セル場合ニハ4例、赤沈檢査ト體溫測定ト併用セル場合ニハ4例、「マ」氏反應赤沈反應及ビ體溫測定ノ三者ヲ併用セル場合ニ於テモ尙1例ノ見落トナル。

依テ集團檢診ニ際シテハ如何ナル困難ヲ排シ

附表第24 赤血球沈降速度ト「X」線寫眞所見トノ比較成績

赤沈價 性別及計	被檢例			正常ナルモノ 1-12mm				13-20		21-30		31-40		41-50		51以上		促進者計				
	♂	♀	計	♂	♀	計	%	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	計	%	
「X」線所見																						
O. B.	44	35	79	36	19	55	69.6	3	9	4	3	0	4	0	0	1	0	8	16	24	30.4	
IB. b. c. 2. 3.	89	69	158	62	38	100	63.3	20	15	6	9	1	4	0	0	0	3	27	31	58	36.7	
IB. a. b. 1.	5	0	5	0	0	0		2	0	2	0	1	0	0	0	0	5	0	5		100.0	
Vb. c. 2. 3.	45	67	112	26	27	53	47.3	12	26	2	7	3	2	2	3	0	2	19	40	59	52.7	
Va. b. 1.	1	6	7	1	2	3	42.9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	4	4	57.1	
V K(+)	2	8	10	1	5	6	60.0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	3	4	40.0	
IA 2. 3.	2	4	6	2	0	2	33.3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	4	66.7	
IC. III. 1. 2.	2	8	10	0	3	3	30.0	2	3	0	1	0	1	0	0	0	2	5	7		70.0	
VIII 及 Peribro	1	5	6	0	1	1	16.7	1	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	4	5	83.3	
計	191	202	393	128	95	223	56.7	41	58	14	21	5	13	2	5	1	10	63	107	170	43.3	

テモ「レントゲン」検査ヲ第一トナス可キヲ余等モ亦明ニスルヲ得タリ。

今回發見セン結核患者ノX線寫眞像ニ於テハ諸家ノ說ノ如ク年齢ニ依リ極メテ興味アル事實ヲ認メタリ。即チ小學校兒童10名並ニ就學前ノ者2名ニアリテハソノ變化ハ總テ初感染ノ像ヲ

呈シ小學校卒業生19名中僅カニ1名ニ於テ初期變化群ヲ認ムルノミニシテ他ハ全部結節性結核若シクハ浸潤ノ像ヲ示セリ。31名中既往症ノアリシ者ハ女工トシテ勤務中肺疾患、肋膜炎、關節ロイマチスニテ歸郷セン3名ノミニシテ自覺訴ノアリシ者ハ僅カニ5名ニ過ギズ。

第7章 本村ノ結核感染源ニ對スル考察

本調査ニ於テ余等ノ發見セン結核患者ハ31名ニシテ、ソノ感染源ニ就キテ調査センニ附表第25ニ示ス如ク女工トシテ出稼中又ハ歸郷後發病セルモノ10名、家族出稼者ノ歸郷後感染センメタリト思考セラル、者14名ニシテ最モ多數ヲ占ム。

尙家族中ニ工女以外ノ職業ニテ（例之看護婦等）離村セル者ヨリ感染セリト推定セン者4名ニシテ生來村外不出者ニシテ家族ノ出稼ニ關係ナク村内ニ於テ二次的ニ感染セリト思考サレ得ル者ハ僅カニ3名ニ過ギザリキ。

即チ現在中濱區ニ於テ發見セン結核患者ノ大部分ハ出稼女工ニ關係シ、一部分ハ女工以外ノ村外感染者ニシテ更ニソレ等ヨリ二次的ニ村内感染ヲ來セル者ナル事ヲ推定シ得タリ。

余等ノ先ニ本村ノ10箇年ノ死亡者調査ニ於テ結核死亡ハ女性ノミニシテ而モ殆ド全部ハ中年

ノ者ナリシ事ヲ述ベタリ。然レドモソレ等ノ職業離村狀況等ニツキ詳細ニ知ル事ヲ得ザリシハ極メテ遺憾トスル處ナルモ「マ」氏反應ノ検査ニ於テ小學生ノ陽性率ハ從來報告セラレタル農山漁村ニ比シ低率ナルモ小學校卒業後上昇シ且女工トシテノ既往歴ヲ有スルモノニ高率ニ反應ヲ呈スル點ヨリ考察スルトキハ出稼女工ニ禍サル、處大ナルモノアルヲ痛感セシム。

次ニ結核ニ罹患セル女工ノ歸郷ニ依リ汚染セラレタリト思考ス可キ一家族例ヲ示セバ次ノ如シ。

附表第26ニ示セルS家庭（家族番號81要圖參照）ハ祖父兩親並ニ5兒ノ8人家族ニシテ戸主ハ驛員トシテ勤務シ祖父並ニ戸主ノ妻ハ農業ヲ營ミテ生計ヲ保テリ。

祖父及ビ戸主ハ共ニ「マ」氏反應陰性ニシテX寫眞ニ於テ肺門部淋巴腺ノ石灰竈ヲ認ム。而シ

附表第25 結核患者ト推定感染源ニ關スル一覽表

家族 番號	姓 名	年 齡	性	推 定 感 染 源 ニ 關 ス ル 事 項
46	繩 初 同 タ	23	♀	昭和8年ヨリ12年迄女工出稼中發病歸郷 昭和12年ヨリ15年3月迄女工出稼中發病歸郷
		18	♀	
7	田 初	16	♀	昭和13年ヨリ14年迄女工出稼中發病歸郷
41	繩 サ	21	♀	昭和9年2, 3ヶ月間女工出稼中發病歸郷
56	本 初	19	♀	昭和13年女工出稼中肋膜炎ニテ歸郷
60	川 キ	32	♀	18歳ヨリ25歳迄女工出稼結婚ノ爲歸郷
70	木 ハ	43	♀	20歳ノ時1年間女工出稼健康勝レズ歸郷
89	万 ヨ 同 秀	20	♀	昭和9年ヨリ13年迄女工出稼中肺炎炎ニテ歸郷療養中 家族内感染
		8	♂	
86	大 ヤ 同 敬	38	♀	女工出稼中健康勝レズ歸郷(年次等不明) 家族内感染
		12	♂	
79	山 ヨ	31	♀	7年間女工出稼肋膜炎ニ罹リ治療後結婚ス
74	長 久	10	♂	母女工, 胸部硬變性變化ヲ認, 父結婚後「ルイレキ」ニ罹ル
81	柳 オ 同 昭 同 愛 同 和 同 正 同 一	35	♀	戸主ノ姪女工出稼中肺結核ニ罹リ歸郷 同居療養中昭和13年死亡ス
		13	♂	
		12	♀	
		10	♂	
		7	♀	
5	♀			
93	林 富 同 義	9	♂	母17歳ヨリ20歳迄女工トシテ出稼シ胸部ニ 硬變性變化ヲ有スル他感染源トシテ徴スベキモノナシ
		4	♂	
64	川 傳 同 ヒ	40	♂	妻13歳ヨリ26歳迄女工出稼, 胸部硬變性變化ヲ認 妻ノ連子
		11	♀	
49	池 ミ	58	♀	三女26歳ニテ女工出稼中肺結核ニ罹リ歸宅死亡ス
91	下 カ 同 チ	57	♀	チ〇ノ夫他村公職中肺結核ニ罹リ歸宅療養セリ
		30	♀	
94	樋 ハ	53	♀	長女看護婦トシテ勤務 } 結核ニ關係深キ勞務者ヨリ? 姉看護婦トシテ勤務 }
90	齋 三	14	♂	
57	川 松	10	♂	57番ノ家族ニテ周圍ニ結核死亡家族多シ(20, 66)村内感染
51	池 松	40	♀	} 村内感染, 他ニ徴不可キモノナシ
71	木 ツ	55	♀	

テ生來健全ニシテ著患ナシ。

然ルニ戸主ノ姪某15歳ハ女工トシテ出稼中肺
結核ニ罹リ歸郷, 事情ニ依リ同家ニ於テ療養中

1昨年死亡セリ。ソノ間戸主ノ妻並ニ子女5名

共ニ感染シ現在尙活動性ノ状態ニアルヲ認メタ
リ。

附表第26 家庭内結核感染例

家 族 年 性	齡 並 柄	體 温	「マ」氏反應 mm	赤 沈 値	「レ」寫眞所見
71歳♂	戸主父	36.9°C	2×3	17	L. IB. c. 3.
39歳♂	戸 主	36.4°C	(-)	8	L. IB. c. 3.
35歳♀	戸主妻	37.3°C	13×13	11	R. IIIA. c. 2.
13歳♂	長 男	37.7°C	10×12	20	D. IC. b. K(+), 1.
12歳♀	長 女	37.9°C	(-)	25	D. IC. b. 1.
10歳♂	二 男	37.2°C	12×13	28	D. IB. b. 1.
7歳♀	二 女	37.7°C	(-)	不 檢	D. IC. b. 1.
5歳♀	三 女	37.7°C	(-)	不 檢	D. IC. b. 1.
15歳♀	戸主ノ姪ニシテ女工出稼申結核歸郷死亡				

本例ノ如キハ明カニ出稼ニ依リ村外ニ於テ感染シ更ニ村内即チ家族内感染ヲ起セシ適例ト認メラル。

尙發見セシ患者31名ノ個々ニツキテ「X」線所見ヲ詳細ニ觀察スルニ村内ニ於テ二次的ニ感染セリト思考サレ得ル小兒ハ何レモ初感染ノ像ヲ呈シ女工歸郷者ハ更ニソノ變化強ク或ハ浸潤結節性結核將亦空洞性結核ノ像ヲ認メシム。

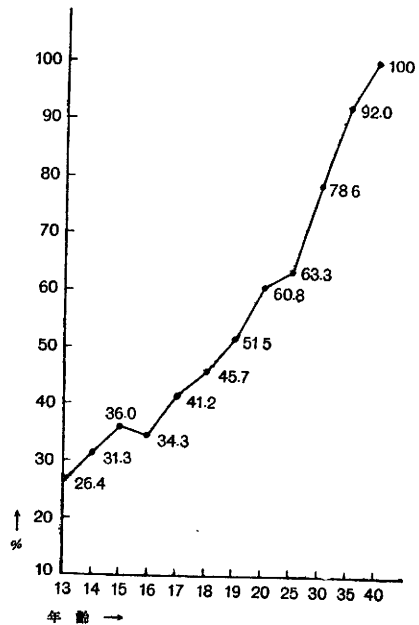
コレヲ要スルニ本村ハソノ地理的並ニ職業的關係ヨリ小學校卒業後多クハ村外ニ於テ労働ニ従事シ離村女子ノ殆ド全部ハ女工デアリ、男子ハ主トシテ一時的の短期間ノ土工作業ノ爲出稼スル者ニシテ、特ニ女工ハ急激ニ全然異リタル生活環境ニ於テ團體的の勞務ニ従事スル關係上抵抗力ノ低下ヲ來シ健康ヲ害シ易ク又自然結核ニ容易ニ感染スルモノナラン。

先ニ余等ノ教室ニ於テ井出⁽³⁵⁾ハ石川縣下ノ某工場ノ女工ニツキ結核ヲ主トセル集團檢診ヲ行ヒシニ附表第27ノ如ク年齢ト共ニ極メテ平行的ニ「マ」氏反應陽性率ノ上昇スルヲ認メタリ。尙勤務年限ニ於テモ亦各年齢ヲ通ジ最初ノ1箇年ニ於テ急激ニ陽性率ノ上昇スルヲ認メタリ。

コレ等ノ事實ヨリスルモ工場勞務女工間ニ於テ如何ニ高率ニ結核感染ノ起ルカラ親知スルヲ得ベシ。

更ニ村外感染者ト村内感染者ノ經過ニツキテ

附表第27 石川縣下機業女工ノ年齢別「マ」氏反應成績 (昭和14年谷野内科調査成績)



ハ今後ノ調査ニ待ツ可キ者ナルモ現在若年者間ニ認メタル結核ノ相當進行性ニシテ而モ一般ニ無自覺ニ何等ノ醫療的の對策ナク日常生活ヲナシツ、アル状態ヲ見ル時誠ニ憂慮ス可キ現況ニアラザルヲ知ル。

第 8 章 結 論

余等ハ昭和15年8月工場労働出稼者ノ結核感染並ニ歸郷後ニ於ケル村内汚染状態ヲ究メンガ爲、山嶽ト海岸ニ相挾マレ家屋ノ比較的密集セル漁村ニシテ而モ年々多數ノ子女ヲ出稼センメツ、アル新潟縣西頸城郡浦本村字中濱區ヲ對象トシテ結核ヲ主トセル健康調査ヲ施行シ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

(1) 調査時ノ人口ハ537名ニシテ健康診断ニ應ジタル者484名即チ90.13%ノ受檢率ヲ示セリ。

(2) 中濱區ニ於ケル最近8箇年間ノ結核死亡者ハ11名ニシテ總死亡ノ11.46%ニ相當シ而モ結核死亡者ハ總テ女性ニシテ内9名ハ15歳以上30歳未滿ノ中年ノ婦人ナリ。

(3) 「マ」氏反應ヲ施行セン375名中38.67%ニ陽性ヲ示シ内小學生ハ123名中12.19%ニ陽性成績ヲ示セリ。コレヲ本邦各地ニ於ケル農山漁村民ノ「マ」氏反應成績ト比較スルニ兒童ニ於テハ比較的低率ナルニ反シ一般住民ノ陽性率ハ高シ。

(4) 年齢16歳以上50歳未滿ノ女性ヲ女工出稼ノ既往歴ヲ有スル者ト然ラザル者トニ分ケテ「マ」氏反應成績並ニ「レントゲン」所見ヲ検討スルニ前者ニ於テ陽性率高キヲ知ル。

(5) 赤血球沈降速度ハ結核患者ニシテ正常値ヲ示シ又「レントゲン」寫眞ソノ他ノ所見ニ於テ結核性疾患ヲ認メザル者ニ於テ促進セル者アルニ依リ集團檢診ニ於ケル結核患者發見ノ目標トスルニ適セズ。

(6) 「レントゲン」寫眞455枚ニツキテ檢スルニ27.17%ニ於テハ全然變化ヲ認メズ37.39%ニ肺門腺結核ヲ26.96%ニ結節性變化ヲ2.86%ニ浸潤性感染ノ像ヲ認メタリ。

(7) 本區ニ於テ發見セン結核患者ハ31名ニシテ被檢者ノ6.41%ニ相當シ各地ニ於ケル報告ニ比シテ高率ナリ。

(8) 感染源ヲ推測スルニ女工勤務中或ハ歸村後發病セル者10名、他ハ總テ村内ニ於テ二次的ニ感染セン者ニシテ村外感染者ニ比シ村内感染者ハ約2倍ニ當レリ。而シテ其等ノ大多數ハ歸村者ニソノ感染源ヲ歸ス可キモノト考ヘラル。

以上ノ事實ニヨリ本村ノ結核死亡者並ニ結核患者ハ共ニ出稼女工ニ禍サレタル事ハ明カニ窺知スルヲ得タリ。而シテ現下時局ノ進展ニ伴ヒ農山漁村ヨリ工場地ヘノ出稼者ハ年々増加ノ傾向ヲ示シツ、アルハ國策上誠ニ止ムヲ得ザル處ナルモ、コレ等出稼者ノ都會地ニ於ケル結核感染又ハ歸村者ニ依リ村内汚染率ノ相當高度ナルハ誠ニ遺憾トスル處ナリ。コノ關係ハ余等ノ調査ノ全般ヨリ考察スルモ歴然タル處ナリ。而シテ今後現在ノマ、ニ放置センカ、一層憂慮ス可キ状態トナル事ハ何人モ易ク想像シ得ル處ナリ。

依テ余等モ亦工場ニ於ケル結核豫防對策ノ確立即チ豫防並ニ治療機關ノ擴充ノ速カニ實現セラル可キ必要ヲ痛感セリ。

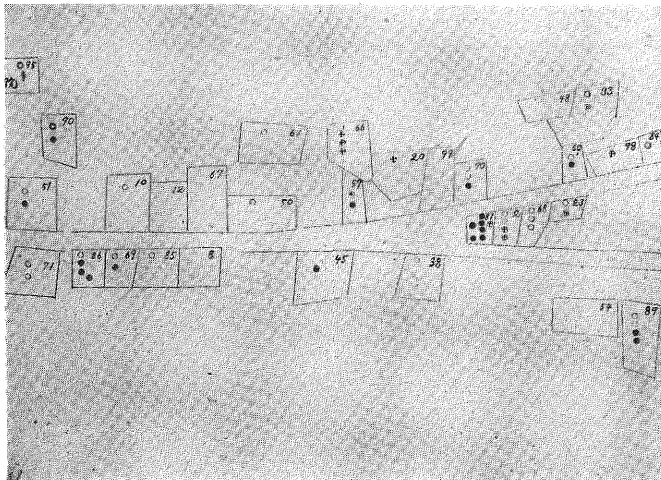
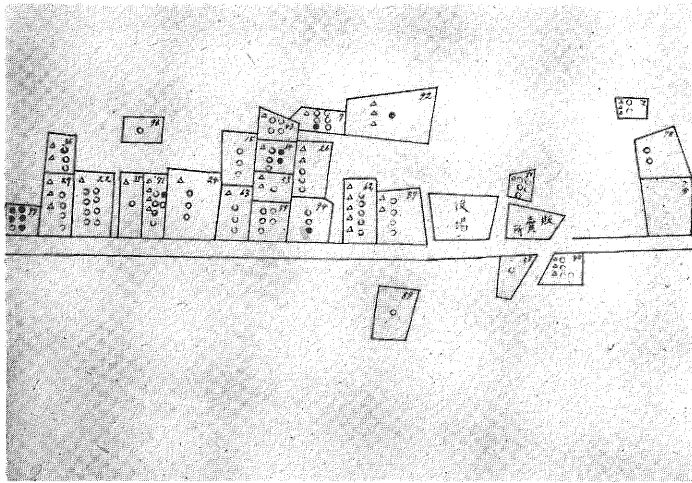
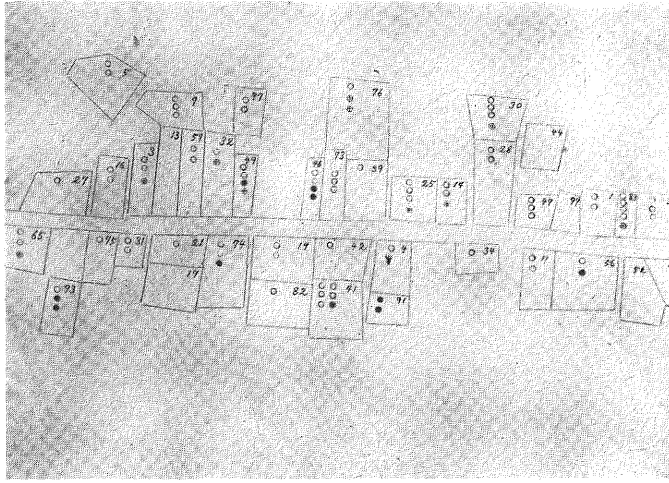
更ニ結核ヲ主トセル集團檢診ハ離村者トソノ出身地トヲ相對照シテ累年のニ施行シ以テ豫防ト同時ニ罹患者ノ早期發見並ニ治療ニ萬全ヲ期スルハ現下ノ急務ナリト信ズ。

擧筆ニ臨ミ現地マデ出張ノ上種々御懇篤ナル御指導ヲ賜ハリ且御校閱ノ勞ヲ取ラレタル恩師谷野教授ニ深甚ナル謝意ヲ表シ又本調査ヲ課セラレ種々御援助セラレタル古屋博士ニ深謝ス。

本調査ニ對シ種々御便宜ヲ興ヘラレタル縣村區當局ノ各位並ニ浦本村小學校長沼野省三氏、同校々醫横山省吾氏、糸魚川職業指導所長橋本秀治氏、糸魚川町谷正吉醫學士ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表ス。

本研究ニ要シタル經費ノ大部分ハ學術振興會ノ研究費補助金並ニ木谷獎學資金ニ據ルモノニシテ此處ニ謹ンデ謝意ヲ表ス。

柿下・横井・上月・田中・橋本・水谷論文附圖 (I)



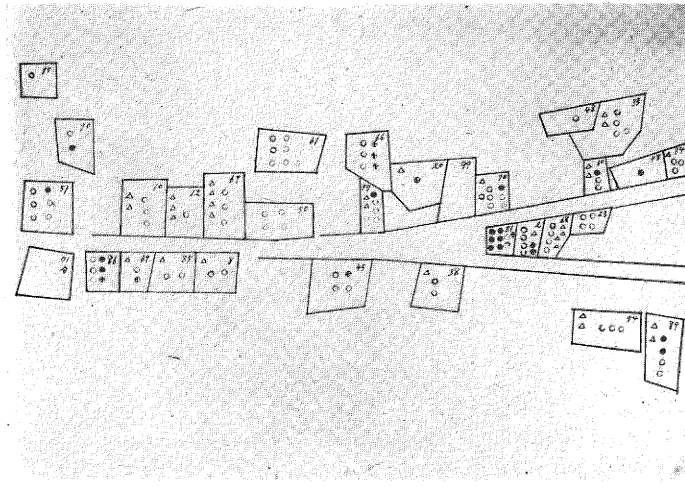
中濱區要圖

註

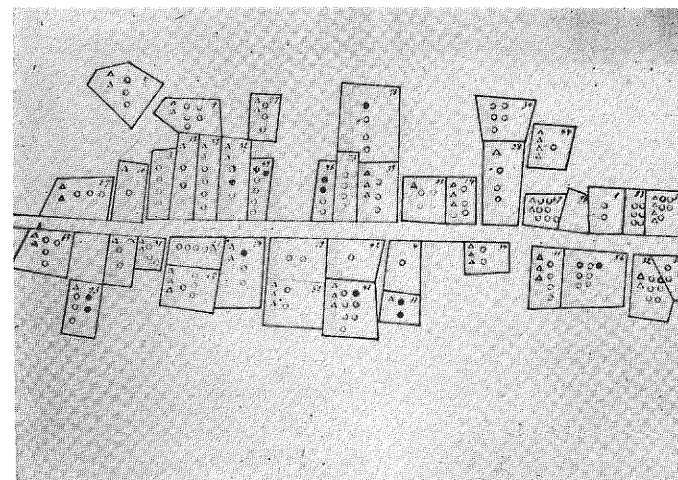
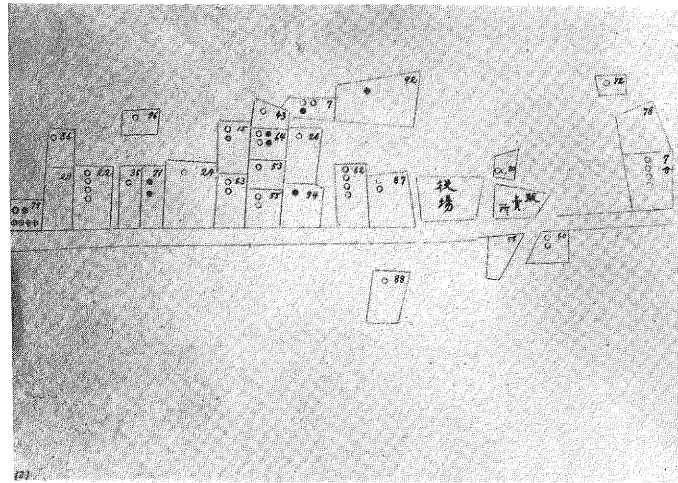
○……………「マ」氏反應陽性者
 ◎……………「マ」氏反應陽性小學兒童
 ⊕……………結核死亡者

●……………結核患者
 數字……………家族番號

柿下・横井・上月・田中・橋本・水谷論文附圖 (2)



- ……………X 所見アル者
- △……………X 所見ナキ者
- ⊕……………Tbc 死亡者
- ……………Tbc 患者



文 獻

- 1) 熊谷内科, 結核, 18卷, 6號, 407—439頁, 昭和15年. 2) 有馬, 金井, 笠井, 結核, 18卷, 6號, 399頁. 及日本臨牀結核, 1卷, 5號, 65頁, 昭和15年. 3) 中村他6氏, 結核18卷, 6號, 407頁, 昭和15年. 4) 中村他7氏, 結核, 18卷, 6號, 423頁, 昭和15年. 5) 古屋, 民族生物學研究, 第6輯, 昭和13年. 6) 中村他7氏, 結核, 18卷, 6號, 439頁, 昭和15年. 7) 有馬, 清水, 結核, 18卷, 6號, 388頁. 及日本臨牀結核, 1卷, 3號, 89頁, 昭和15年. 8) 有馬, 金井, 日本臨牀結核, 1卷, 1號, 112頁, 昭和15年. 9) 岡田, 結核, 17卷, 147頁, 昭和14年. 10) 木村他10氏, 結核ノ臨牀, 1卷, 578頁, 昭和13年. 11) 小原, 東北醫學雜誌, 23卷, 654頁, 昭和13年. 12) 石田他3氏, 東北醫學雜誌, 21卷, 390頁, 昭和12年. 13) 新井, 日本公衆保健協會誌, 13卷, 645頁, 昭和12年. 14) 有馬, 安達, 曾根, 結核, 17卷, 592頁, 昭和14年. 15) 今村, 結核, 16卷, 627頁, 昭和13年. 及日本臨牀結核, 1卷, 1號, 38頁, 昭和15年. 16) 井上, 結核, 4卷, 431頁, 大正15年. 17) 岡田他3氏, 結核, 18卷, 451頁, 昭和15年. 18) 楠他7氏, 結核, 18卷, 467頁, 昭和15年. 19) 星, 東北醫學, 25卷, 2號, 125頁, 昭和14年. 20) 横井, 菱川, 黒田, 十全會誌, 45卷, 10號, 3151頁, 昭和15年. 21) 秋月, 星, 臨床皮科, 4卷, 1026頁, 昭和13年. 22) 熊谷, 有馬, 結核, 18卷, 495頁, 昭和15年. 23) Rehberg : Assmann, Ergebnisse d. g. Tuberkulow forschung Bd. VII S. 94, 1935. 24) 結核, 18卷, 412頁, 昭和15年. 25) Koch : Zeitsch. Kinderhkl. Bd. 43. S. 185, 1927. 26) 今村, 結核, 12卷, 157頁, 昭和9年. 27) 寺島, 結核, 11卷, 123頁, 昭和8年. 28) 宮川, 治療及處方, 16卷, 1407頁, 昭和10年. 29) 岩波, 犯罪學雜誌, 9卷, 555頁, 昭和10年. 30) 中村及岡田, (3)及(17)同シ. 31) 今村, 診斷卜治療, 昭和8年, 臨時增刊號, 655頁. 32) 熊谷, 日本內科學會, 20卷, 47頁, 昭和7年. 33) 横井, 井出等, 結核, 18卷, 547頁, 昭和15年.